



®

エコアクション21
認証番号0004299

環境経営レポート

(2021年1月1日～2021年12月31日)



ECOS FACTORY

2022年4月 発行

会社概要

- 事業所名 株式会社エコスファクトリー 埼玉工場
- 代表者 代表取締役 増田 淳
- 所在地 〒367-0226 埼玉県本庄市児玉町宮内字大谷838番地4
- 事業概要
 - ・マテリアルリサイクル可能な廃プラスチックの再資源化事業
- 事業規模
 - ・資本金 9,000万円
 - ・従業員数 48名
- 活動実績

| 活動規模 | 単位 | 2019年度 | 2020年度 | 2021年度 |
|------------------|----------------|-----------|-----------|-----------|
| 処理量 (再商品化受託量) | t | 23,132 | 24,119 | 22,048 |
| リサイクル製品製造量 | t | 11,136 | 11,974 | 11,142 |
| 売上高 | 千円 | 1,622,055 | 1,601,894 | 1,522,171 |
| 従業員(※) | 人 | 52 | 55 | 49 |
| 床面積 | m ² | 5,661 | 5,661 | 5,661 |

(※) 従業員人数には契約社員・派遣社員を含み、監査役・社外取締役を含みません。
尚、監査役・社外取締役は当EA21の管理外です。

● EA21 事務局

環境管理責任者： 管理部 大谷恭弘
TEL:0495-72-5232 FAX:0495-72-5289
担当者連絡先： 同上
yasuhiro.otani@veolia.com

沿革

平成18年5月：会社設立

同年6月：再生プラスチック原料製造・販売開始

平成19年3月：埼玉新工場着工

同年9月末：埼玉新工場竣工

平成20年4月：工場稼動

容器包装プラスチック再生事業について取得

平成21年10月：エコアクション21認証取得

平成22年5月：ISO9001取得

平成28年9月：JIS Q 9001取得

平成29年3月：JIS Q 9091取得

業の許可等について

| | | | |
|--------|---|------|----------|
| 許可の年月日 | 平成25年7月23日 | 許可番号 | 埼玉県 第25号 |
| 施設の種類 | ごみ処理施設(破碎施設) 容器包装に係わる分別収集及び再商品化の促進等に関する法律に規定する容器包装廃棄物のうち、同施行規則別表第一、八の項に掲げるもの | | |
| 設置場所 | 本庄市児玉町宮内字大谷838番地4 | | |
| 処理能力 | 120.0 t/日 | | |

当事業(容器包装リサイクル事業)は市町村から一般廃棄物の処理委託を受けた
指定法人(公益財団法人容器包装リサイクル協)との契約により事業を行っております。
当事業に関しては、施設を設置するにあたり設置許可以外の一般廃棄物処理業、
産業廃棄物処理業、収集運搬業の許可は必要ありません。

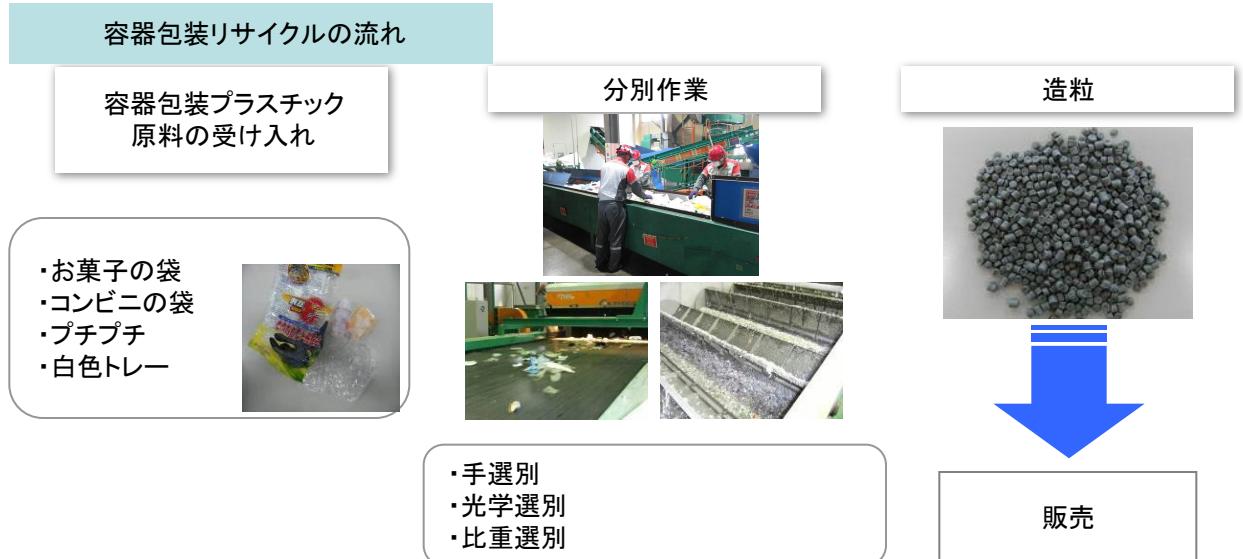
対象範囲

| | 区分 | EA21対象 |
|-----|------|----------|
| 取締役 | 常勤 | ○ |
| | 非常勤 | ×(監査役含む) |
| 従業員 | 正社員 | ○ |
| | 契約社員 | ○ |
| | 派遣社員 | ○ |

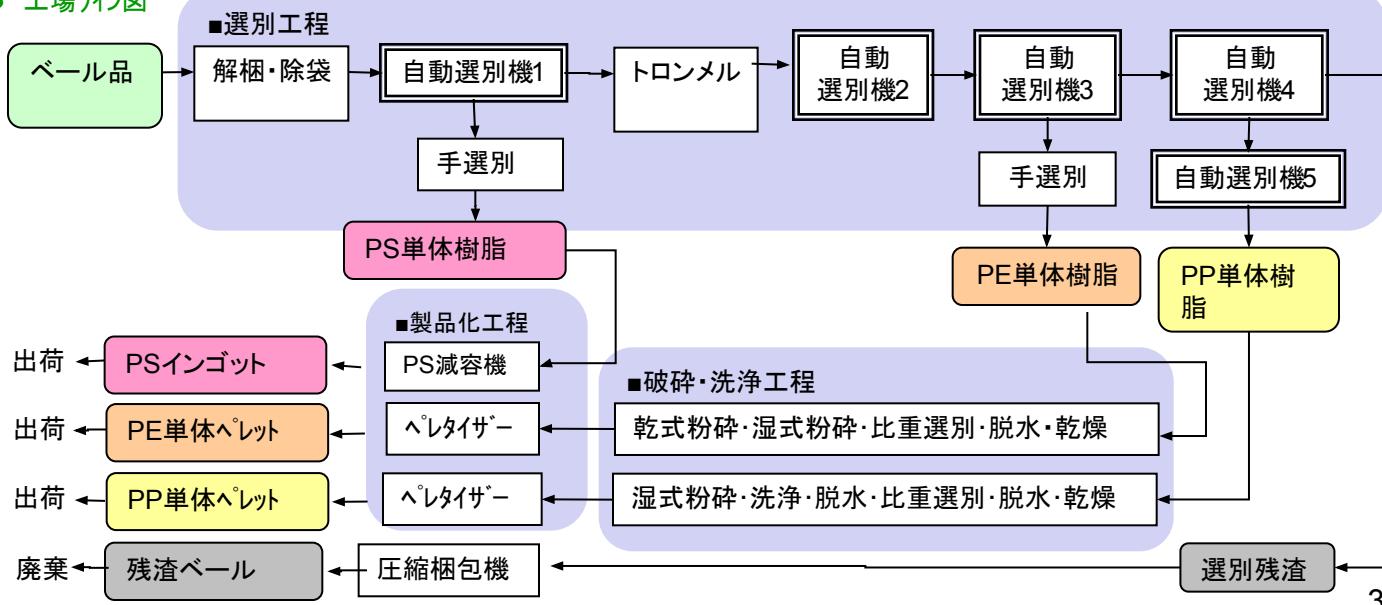
事業活動

● 事業内容

- ・マテリアルリサイクル可能な廃プラスチックの再資源化事業



● 工場ライン図



容器包装プラスチックのリサイクルとは

一般廃棄物の減量と、資源の有効活用の確保を目的とし、家庭から出るごみの約6割(容積比)を占める容器包装ゴミに対し、平成7年に容器包装リサイクル法が制定されました。

容器包装リサイクル法では、特定事業者(図中①)と呼ばれる容器包装の製造事業者と利用事業者が容器包装をリサイクルする義務を負っています。

特定事業者は、義務を履行するにあたり、自社でリサイクルを行う以外に、指定法人日本容器包装リサイクル協会(容リ協 図中②)へ再商品化費用を支払いリサイクルを委託することができます。

指定法人は、自治体から排出される容器包装廃棄物の処理を容器包装リサイクル法に則って契約した再生事業者(図中③)に委託し、特定事業者の義務の履行を補助します。

再生事業者は、競争入札制度を経て、容器包装リサイクル品の製造と販売を受託します。

当社の「容器包装リサイクル事業」は、このように容器包装をリサイクルする為の社会的受け皿として機能しており、当社は容器包装廃棄物の中のプラスチック製容器包装のリサイクルを行っています。

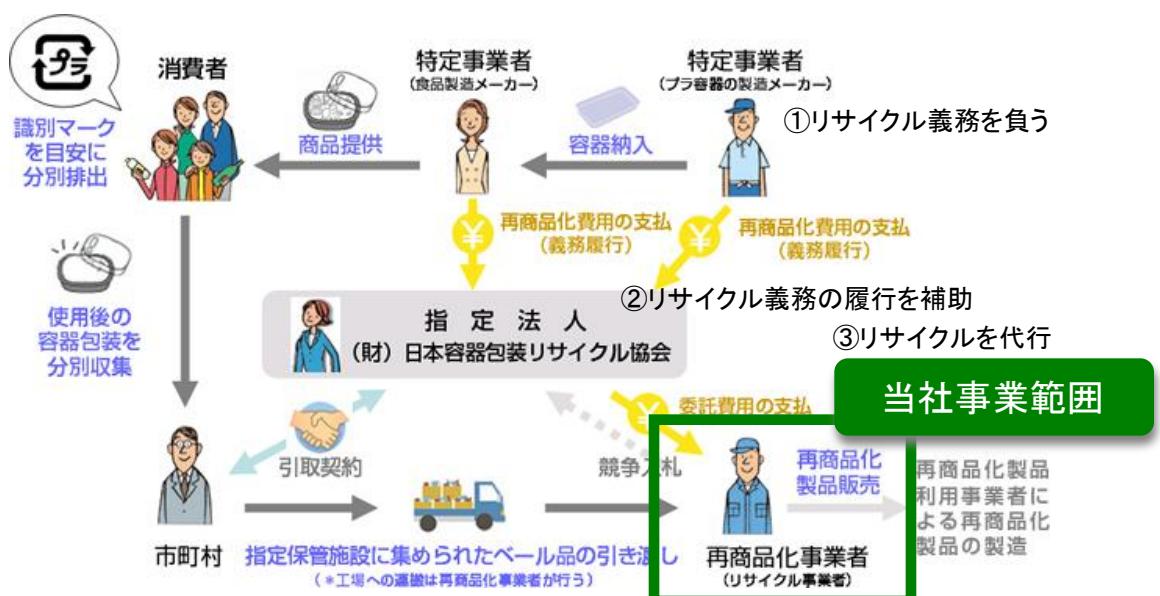
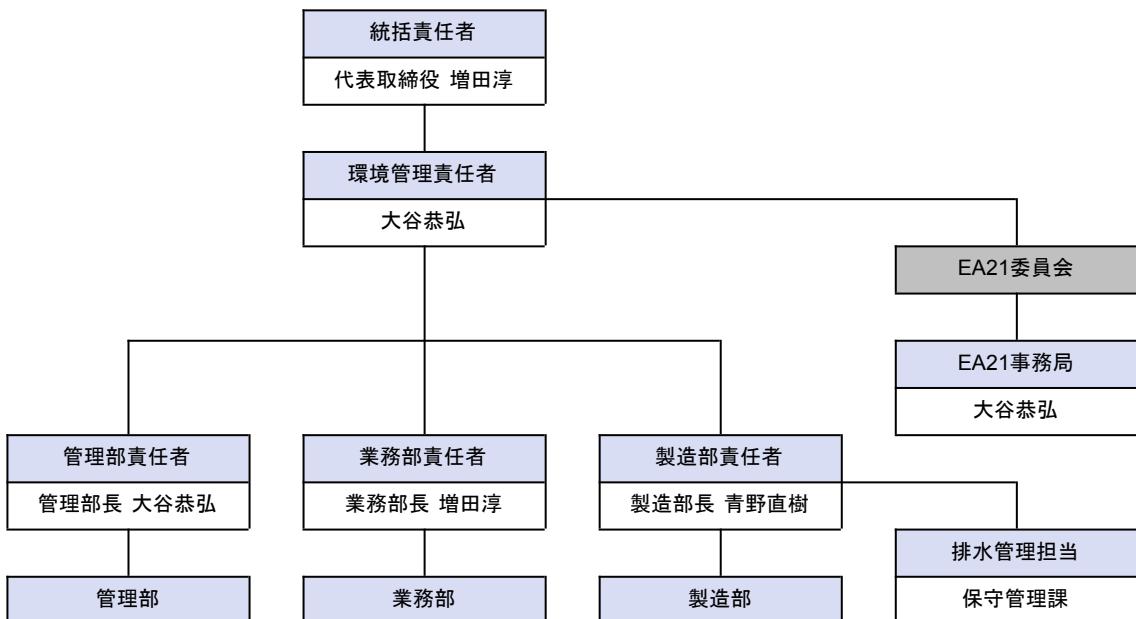


図2.1 容器包装リサイクル法の流れと当社の事業範囲

環境管理体制図



| 職名 | 役割 |
|------------------------|---|
| 統括責任者 | <ul style="list-style-type: none"> □ 環境管理責任者及びその他の責任者を任命する。 □ EA21委員会の開催を決定する。 □ 環境経営方針を決定する。 □ 経営における課題とチャンスの明確化。 □ 環境経営に必要な資源(費用、設備、人員等)を確保し、提供する。 □ EA21の総合評価と方針の見直しを行う。 □ 関係法令遵守に関し、責任を持つ。 |
| 環境管理責任者 | <ul style="list-style-type: none"> □ 環境経営目標及び実績管理表の作成を行う。 □ EA21委員会の運営を行う。 □ EA21に係る全ての事項を統括する。 |
| エコアクション21 (EA21)委員会 | <ul style="list-style-type: none"> □ EA21に係る事項の報告及び決定の場とする。 □ 代表取締役社長、環境管理責任者、管理部長、業務部長、製造部長及びEA21事務局で構成し、環境管理責任者が召集する。なお、環境管理責任者が必要と判断した者に関しては、出席することが可能とする。 |
| エコアクション21 (EA21)事務局 | <ul style="list-style-type: none"> □ 事務局として環境管理責任者を補佐し、EA21に係る事項の実務を中心的に行う。 |
| 各部門責任者 | <ul style="list-style-type: none"> □ EA21委員会での決定事項に基づき、部門の統括をする。 |
| 排水管理担当 | <ul style="list-style-type: none"> □ 工場排水が排水基準を超えないよう、日々の水質検査及び水質改善対策に関して水処理設備維持管理業務委託先から報告を受け、必要に応じて報告を行う。 |

2021年度 事業におけるマテリアルフロー

INPUT

製品原料
(再商品化受託量)
22,048 t

エネルギー投入量
電力量: 11,171 MWh
LPG: 15,510kg

水資源投入量
70,077m³

OUTPUT



生産量
11,142 t

排水量
55,723 m³

廃棄物発生量
10,907 t

CO2排出量
4,973 t-CO2

販売先
製品例



パレット



排水管用
ソケット



餌箱



ゴミ袋

廃棄物
処理方法



電力-CO2排出係数0.441Kg-CO2/kwh
(2020年度:東京電力エナジーパートナー)

環境経営方針

私たち、株式会社エコスマクトリーは、プラスチックのリサイクル事業を通じて、循環型社会の構築に貢献します。

また、エコアクション21(以下、EA21)に基づく環境経営システムに取組み、省エネルギー、省資源、廃棄物削減を徹底する事により、環境に配慮した工場運営を目指します。

1. 行動理念

より環境負荷の少ない事業者と成る為に従業員一丸となって取組を行う
更にEA21に基づく環境経営システムに取組み
環境関連の法規等を遵守すると共に、地域・業界・市場の
環境関連要求事項に配慮しつつ、環境活動の継続的改善を図り、
世界に誇れる日本のインフラとしてのリサイクル事業者を目指す。

2. 行動指針

- i) 環境目標及び行動計画として、下記の重点事項を設定し、必要に応じて見直す事によって、環境方針に整合した活動を行います。
 - ① 省エネルギー推進による二酸化炭素排出量の削減
 - ② 用水使用量の削減、コピー用紙使用量の把握及び削減による省資源の推進
 - ③ 一般廃棄物排出量の削減
 - ④ リサイクル率の向上による産業廃棄物排出量の削減
 - ⑤ 化学薬品使用量の管理の徹底
 - ⑥ 環境保全体制の確立、環境啓蒙活動への取組み
- ii) 環境コミュニケーションを通じて、地域住民、顧客、その他内外に当社の環境活動を伝達します。
- iii) 全従業員に対してこの環境方針を周知させます。

改定:2022年4月1日
株式会社 エコスマクトリー
増田 淳

環境経営目標

2021年度環境経営目標

| 環境方針 | 環境項目 | 単位 | 基準 | 中期目標 | | |
|---------------------|-------------|------------------------|-------|--------|--------|--------|
| | | | | 2020年度 | 2021年度 | 2022年度 |
| 1. 省エネ推進によるCO2排出量削減 | 電力使用量 | KWh/t(投入量) | 515 | 510 | 508 | 506 |
| | ガス使用量 | Kg/t(投入量) | 0.97 | 0.96 | 0.95 | 0.94 |
| | CO2排出量 | Kg-CO2/t(投入量) | 244 | 243 | 242 | 241 |
| 2. 省資源の推進 | コピー用紙使用量 | 枚/月 | 8,200 | 8,100 | 8,000 | 7,900 |
| | 上水使用量 | m ³ /t(投入量) | 3.26 | 3.25 | 3.24 | 3.23 |
| | 排水量 | m ³ /t(投入量) | 2.65 | 2.64 | 2.63 | 2.62 |
| 3. 一般廃棄物搬出量削減 | 一般廃棄物排出量 | Kg/月 | 350 | 347 | 344 | 341 |
| 4. リサイクル率向上・産廃搬出量削減 | 再資源化率 | % | 46.1 | 46.2 | 46.3 | 49.4 |
| | 廃棄物発生率 | % | 54.6 | 54.1 | 53.6 | 51.1 |
| 5. 化学薬品使用量管理 | 硫酸バンド | Kg/t(投入量) | 5.64 | 5.54 | 管理の徹底 | 管理の徹底 |
| | 苛性ソーダ | Kg/t(投入量) | 0.89 | 0.88 | 管理の徹底 | 管理の徹底 |
| | リン酸 | Kg/t(投入量) | 0.125 | 0.124 | 管理の徹底 | 管理の徹底 |
| | 尿素 | Kg/t(投入量) | 0.125 | 0.124 | 管理の徹底 | 管理の徹底 |
| 6. 環境保全・啓蒙活動 | 法令チェック | チェック回数/年 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| | 環境教育 | 教育回数/年 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 環境コミュニケーション | 工場見学件数 | 10 | 5 | 5 | 5 |
| | 環境貢献活動 | 地域清掃 | 1 | 1 | 1 | 1 |

* 2017年度～2019年度の実績値を考慮し、基準値と目標値を設定。

電力-CO2排出係数0.441Kg-CO2/kwh

環境経営活動計画

2021年度環境経営活動計画

| 環境方針 | 環境目標 | 取組項目 | 取組内容 |
|--------------------------|-----------------|--------------------|--|
| 1.省エネ推進によるCO2排出量削減 | 電力使用量の削減 | デマンドコントローラー監視による節電 | ・電力量計によるピーク電力抑制制 |
| | | 不要電灯の消灯 | ・不要照明電灯消灯の徹底 |
| | | エアコンの使用管理 | ・エアコンの使用ルールの明示 |
| | | 設備整備等による能力復帰 | ・洗浄設備スクリーン清掃 ・押出機スクリュー清掃 ・粉碎機刃物の定期交換 ・高効率モーターへ切替 |
| | | 工程毎の電力測定 | ・電力値を把握し、早急な対策の実施 |
| | 化石燃料(LPG)使用量の削減 | 不要エネルギー削減 | ・適正な車両整備 ・ホール残渣、製品、中間品保管場所の見直し |
| 2.省資源の推進 | コピー用紙使用量の削減 | ペーパーレス会議の促進 | ・プロジェクト、モニター利用継続 |
| | | 裏紙利用の促進 | ・使用済コピー用紙保管位置表示 |
| | | 電子化FAXの促進 | ・電子メール・FAX利用の推奨 |
| | 上水使用量の削減 | 上水削減 | ・流量計による工程毎の使用量管理 ・時間毎の使用量の管理 ・適正なケーリングタワー、チラー、熱交換器洗浄 |
| 3.一般廃棄物搬出量の削減 | 一般廃棄物搬出量の削減 | 分別の徹底 | ・仕分表示 |
| 4.リサイクル率向上による産業廃棄物搬出量の削減 | 産業廃棄物の削減 | 収率向上 | ・入荷ペールの組成調査 ・選別機の選別プログラム改善 ・適切な自動選別機運用管理 |
| 5.化学薬品使用量管理 | 化学薬品使用量管理 | 使用量監視 | ・水質を分析し薬剤の適正使用量を調整 ・日次、週次、月次使用量把握 |
| 6.環境保全体制・啓蒙活動 | 法令遵守・体制の構築 | 法令遵守状況確認 | ・コンプライアンス委員会実施 |
| | 環境教育の実施 | 環境教育の実施 | ・グループ会社向け説明会実施 ・工場見学者向け説明会実施 |
| | 環境コミュニケーションの実施 | ホームページの充実 | ・工場見学の誘致 |
| | 環境貢献活動 | 地域清掃実施 | ・工業団地内清掃実施 |

環境経営目標の実績

2021年度環境経営目標の実績

| 環境方針 | 環境項目 | 単位 | 基準 | 2021年度目標 | 2021年度実績 | 評価結果 |
|----------------------------------|---------------------|-----------------------------|-------|----------|----------|------|
| 1. 省エネ推進によるCO ₂ 排出量削減 | 電力使用量 | kWh/t (投入量) | 515 | 508 | 507 | ○ |
| | ガス使用量 | kg/t (投入量) | 0.97 | 0.95 | 0.70 | ○ |
| | CO ₂ 排出量 | kg-CO ₂ /t (投入量) | 244 | 242 | 226 | ○ |
| 2. 省資源の推進 | コピー用紙使用量 | 枚 / 月 | 8,200 | 8,000 | 7,792 | ○ |
| | 上水使用量 | m ³ /t (投入量) | 3.26 | 3.24 | 3.18 | ○ |
| | 排水量 | m ³ /t (投入量) | 2.65 | 2.63 | 2.54 | ○ |
| 3. 一般廃棄物搬出量削減 | 一般廃棄物排出量 | kg / 月 | 350 | 344 | 240 | ○ |
| 4. リサイクル率向上・産廃搬出量削減 | 再資源化率 | % | 46.1 | 46.3 | 50.5 | ○ |
| | 廃棄物発生率 | % | 54.6 | 53.6 | 49.4 | ○ |
| 5. 化学薬品使用量削減 | 硫酸バンド | kg/t (投入量) | 5.64 | 基準値監視 | 4.67 | ○ |
| | 苛性ソーダ | kg/t (投入量) | 0.89 | 基準値監視 | 0.36 | ○ |
| | リン酸 | kg/t (投入量) | 0.125 | 基準値監視 | 0.078 | ○ |
| | 尿素 | kg/t (投入量) | 0.125 | 基準値監視 | 0.108 | ○ |
| 6. 環境保全・啓蒙活動 | 法令チェック | 実施回数/年 | 12 | 12 | 12 | ○ |
| | 環境教育 | 教育回数/年 | 1 | 1 | 10 | ○ |
| | 環境コミュニケーション | 工場見学件数 | 10 | 5 | 14 | ○ |
| | 環境貢献活動 | 地域清掃 | 1 | 1 | 2 | ○ |

* 2017年度～2019年度の実績値を考慮し、基準値と目標値を設定。

電力 - CO₂排出係数0.441kg - CO₂/kWh

環境経営活動計画の取組結果とその評価

| 環境方針 | 取組結果及び活動内容 | | 評価 |
|--------------------------|--------------------------|---|----|
| 1.省エネ推進によるCO2排出量削減 | ・電力使用量の削減に向けての取り組み | 1. デマンドコントローラー運用により、ピーク電力の監視を継続して実施 2. 不要電灯消灯を継続して実施 (トイレには自動点灯消灯機能設置) 3. エアコン使用ルールを継続して遵守。 4. 設備負荷低減(粉碎機スクリーン・定期刃物交換、押出機スクリュー清掃) 5. 工程毎の電力測定実施 6. 主要設備駆動モーターを高効率モーターに切替 (設備更新及びモーター交換時) | 達成 |
| | ・化石燃料使用量の削減に向けての取り組み | 1. 原料、製品、仕掛品置場見直し 2. アイドリングストップによる削減を実施 3. 適正な車両整備を実施 | 達成 |
| 2.省資源の推進 | ・コピー用紙使用量削減に向けての取り組み | 1. ペーパーレス会議の促進 (プロジェクトを使用しての社内会議実施) 2. 裏紙使用の促進 3. FAXの電子化、電子メール利用の推奨 | 達成 |
| | ・上水使用量の削減に向けての取り組み | 1. チラー熱交換器洗浄、クーリングタワー洗浄 2. 流量計設置による使用量管理 | 達成 |
| 3.一般廃棄物搬出量の削減 | ・一般廃棄物発生総量の抑制、分別によるリサイクル | 1. 工場・事務所 一般廃棄物廃棄場所への仕分け表示を行うことによる周知徹底 | 達成 |
| 4.リサイクル率向上による産業廃棄物搬出量の削減 | ・収率向上 | 1. ベール調査による自治体別組成分析、また分析結果に基づく投入と選別機のプログラム改造を実施 2. 適切な自働選別機の運用・管理実施 | 達成 |
| 5.化学薬品使用量管理 | ・使用量の監視 | 1. 水処理施設で使用する化学薬品使用量の監視 (日次、週次、月次) | 達成 |
| 6.環境保全体制・啓蒙活動 | ・工場見学の誘致 | 1. HPによる工場見学の案内 | 達成 |
| | ・法令順守状況確認 | 1. コンプライアンス委員会を定期開催(毎月実施) | 達成 |
| | ・環境教育の実施 | 1. 一般企業(日用雑貨メーカー・インクメーカー等)リサイクル教育実施 2. 近隣自治区リサイクル教育実施 | 達成 |
| | ・地域清掃実施 | 1. 工業団地内清掃を実施 | 達成 |

法規制の遵守状況

毎月、コンプライアンス委員会において環境関連法規も含めた法規制の遵守状況を確認しております。
排水の管理システムが有効に運営されており、適切に維持・管理されております。
過去3年間、関係当局より違反の指摘及び訴訟はありません。

環境貢献活動～工業団地内清掃～

○工業団地内清掃実施(年2回実施)

毎年3月と9月に地域清掃活動として、当工場の周辺の地域清掃を実施しました。
コロナ禍なため密を避けながら、3つのチームに別れて当工業団地を一周する形でおよそ30分間の清掃を行いました。
飲料用のペットボトルやポイ捨てされたタバコのゴミ等を回収してまいりました。



緊急事態対応

工場内入場者全員を対象に、入場前の安全教育を実施し緊急避難場所等の説明実施。
工場火災を想定し、避難訓練を実施し消火器の使用方法も合わせて確認。大型の消火器を二台設置し
赤外線熱感知器、防犯カメラを常設しています。
火気使用ルールの徹底。
緊急時の迅速且つ、適切な対応を心がけております。

○総合防災訓練の実施(年1回開催)

訓練実施日:2021年3月25日 9:00~
初期消火に失敗したと想定して火災時避難実施。
消火班、避難誘導班、通報班で役割分担をし、全体の流れを事前確認して行いました。
避難完了後、水消火器による散水訓練をし、消火器の使用方法の再確認。



○安否確認システムの実用訓練(年1回実施)

訓練実施日:2021年9月10日 17:00~
セコム安否確認システムのメール機能又はアプリでの情報送信、応対返信を行いました。
(対象地域震度5弱以上で自動送信)

事前に昨年の応答なし一覧を確認し、アドレスやシステム登録状況確認。
携帯電話を持っていない人には電話での個別連絡を実施。(緊急時連絡先カード配布)

以上の訓練により

想定される緊急事態に対して対応出来ることを確認しました。

環境経営活動計画の取組結果とその評価

エコアクション21の環境活動において、管理項目の17項目中全項目で目標の達成となりました。

2021年は新型コロナウィルスがデルタ株の出現等もあり収束しない中、経済環境が世界的に冷え込んだ一年でした。自治体からのプラスチックゴミの入荷量はある程度落ち着いてきましたが、経済の不調の影響を受けて製品単価が低下するなどの厳しい条件での生産となりました。しかし、その逆境を課題として今まで以上に省エネ、省資源、廃棄物削減活動を経営を意識して従業員一同として取り組むことができました。特に再資源化率に関しては過去最高を更新しております。

プラスチック資源循環促進法の成立も踏まえ、プラスチック使用製品の再商品化について当社としても新しい取り組みをすすめていくと共に、今後も地域住民の方が安心して暮らしていけるような環境に配慮した工場運営を行ってまいります。

株式会社エコスマクトリー
代表取締役 増田 淳

次年度の環境経営目標及び環境経営計画

| 環境方針 | 次年度の取組(中期計画・2020年、2021年、2022年 繼続) | | |
|--------------------------|-----------------------------------|----|--|
| 1.省エネ推進によるCO2排出量削減 | ・電力使用量の削減 | 継続 | ・高効率モーターへ切替(設備更新及びモーター交換時) ・設備老朽化による省エネ設備への更新 |
| | | 継続 | ・デマンド電力量監視、不要照明消灯、空調機器類標準設定温度の設定 ・設備機器の改善・補修・交換・洗浄による負荷低減 |
| | ・化石燃料使用量の削減 | 継続 | ・原料・中間品・製品の保管場所を見直し、作業の最適化を図る ・アイドリングストップの徹底 ・適切な車両整備 |
| 2.省資源の推進 | ・コピー用紙使用量の削減 | 継続 | ・全量再生紙の使用を継続 ・裏紙の使用 ・ペーパーレス会議の推進 |
| | ・上水使用量の削減 | 継続 | ・工程毎の水量計による使用量の管理 ・チラー、クーリングタワー、熱交換器の洗浄を適宜行い稼働を維持 |
| 3.一般廃棄物搬出量の削減 | ・一般廃棄物発生の削減 | 継続 | ・分別の徹底による一般廃棄物削減 |
| 4.リサイクル率向上による産業廃棄物搬出量の削減 | ・収率向上 | 継続 | ・ペール調査による自治体別組成分析、分析に基づく原料投入 ・選別プログラム改善 |
| 5.化学薬品使用量管理 | ・使用量の監視 | 継続 | ・水質分析に基づく適正な薬品使用 ・測定機器の管理 |
| 6.環境保全体制の確立・環境啓蒙活動への取組 | ・法令遵守・体制の構築 | 継続 | ・コンプライアンス委員会実施 |
| | ・環境教育の実施 | 継続 | ・環境教育実施 |
| | ・環境コミュニケーションの実施 | 継続 | ・工場見学の誘致 |
| | ・環境貢献活動 | 継続 | ・工業団地内清掃実施 |